

編集 後記

日頃からの本誌へのご支援、ご協力に心からお礼申し上げます。会員の多くの方々が新型コロナウイルス感染症対応に日々奮闘していらっしゃると思います。先日、山梨県甲府市で開催されました第81回日本公衆衛生学会総会は、公衆衛生に関わるすべての方々に未来への希望と勇気を与えてくれました。まだまだ大変な日々が続きますが、お互いに力を合わせて乗り越えていきましょう。

さて、第69巻10号では、原著4編、公衆衛生活動報告1編、資料1編の計6編を掲載しています。まず、4編の原著について、相良らの論文では、介護補助や保育補助としての就労意向を持つ高齢者の特性を明らかにしています。介護補助では生涯学習活動への参加、保育補助では主観的健康観が高いことがその特性として示されています。田島らは、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）の認知・知識・信念・行動意図の現状と身体活動・座位行動との関連について分析し、アクティブガイドの認知・知識・信念・行動意図を有する者は身体活動量が多いことを明らかにしています。江尻らは、住民主体の通いの場における役割と心理社会的健康との関連を分析しています。リーダーやサポーターは参加者よりも心理社会的健康度が高いことが示され、今後は通いの場での役割と心理社会的健康について縦断研究による検証が期待されます。高瀬らは、幼児を持つ父親の育児および家事の実施状況とその関連要因を明らかにしています。父親の子育て参加促進に向けて実施頻度の少ない育児や家事への働きかけや父親を対象とした学級等を検討する必要性が示されています。次に、寺川は、公衆衛生活動報告として先天性横隔膜ヘルニア患者・家族会の立ち上げについて報告しています。患者・家族会の社会的認知度の向上を目指した活動の継続や医療・研究分野との連携の継続が重要であることが述べられています。そして、望月らは都道府県・政令市等での食環境整備のマネジメント実施状況を調査し、食環境整備の目標設定が5-7割の都道府県等で実施されていたことなどを資料として報告しています。

本誌では質の高い原著論文はもとより、現場実践に役立つ公衆衛生活動報告も数多く皆様にお届けしたいと思っております。自治体等現場での取り組みなどを公衆衛生活動報告として是非ご投稿くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。（上原里程）

次号予告（第69巻・第11号）

原著

高齢者における運動行動の変容ステージ別の歩行時間の関連要因：JAGES2019横断研究

.....金森 悟, 他
子ども期における親への援助要請および地域交流の経験と成人期の対人関係の関連

.....中村有里, 他

公衆衛生活動報告

新型コロナウイルス感染症流行下の第1回緊急事態宣言前後の第2層生活支援コーディネーター業務の実態.....杉浦圭子, 他

資料

中学生・高校生におけるメディア利用時間と主観的健康感の関連.....佐野 碧, 他
新型コロナウイルス感染症の流行によるがん医療の受療状況の変化.....松本綾希子, 他